

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 今年も暮れていきます

平成 24 年も残すところ、あと僅かになりました。市役所でも恒例の「今年の 10 大ニュース」を選びましたが、市民のみなさんにもきくと、それぞれの 10 大ニュースがおありのことでしょう。私個人は、大切な人を何人も見送った年でした。人の世の常とはいえ、別れは辛いものです。来年は、どうか市民のみなさんにとって、心穏やかで幸せな年になりますようお祈り申し上げます。

新市民病院の建設も順調に進んでいます。ご承知のとおり、一時は様々な議論がありましたが、今年の 3 月議会で、新病院の建設が議決されました。6 月に地元企業活用型の一般競争入札の告示を行い、10 月に業者が決まりました。12 月には北側の駐車場整備も完成し、年が明けると本体工事に着手します。新病院での診療は平成 26 年 10 月からです。患者のみなさんには「急性期から^{なつとく}納得期」まで利用していただけるよう、病院関係者一同、「患者本位の市民病院」を肝に銘じております。どうぞ新病院での診療の開始まで、もう少しお待ちください。

今年は、内閣府との「男女共同参画宣言都市」の共催記念事業や、学校図書支援員全校配置、観光事業の促進等々のソフト事業も進展しましたが、湾岸道路（仮称：新有帆大橋）や厚狭川関連整備事業のほか、さらに多くの公共施設の整備等のハード事業も始まり、今、本市は復興と次の飛躍に向けて、大きく変わろうとしてい

ます。公共施設は、いわゆる山陽消防署のような単体もありますが、複合化に向けた試みもあり、市民のみなさんの意見の集約も、そう簡単ではありません。幸い合併特例債の使用期限も 5 年延びましたし、ご意見はしっかり聞かせていただき、これから 40 ～ 50 年、市民のみなさんに喜んで使っていただける公共施設の整備に取り組みたいと考えています。

合併後 5 年間で、本市の借金は約 50 億円減りましたが、その後も、市民のみなさんのご協力で、本市の財政は少しずつ向上しています。一番顕著なのは基金の残高です。合併時には退職手当基金 309 万円、財政調整基金 3 億 590 万円、減債基金 8,216 万円、その他特定目的基金が 16 億 5,333 万円で、合計 20 億 4,448 万円しかなかったものが、平成 23 年度末には、その 2 倍の 44 億 9,217 万円となりました。起債（借金）残高も合併当時と比較し、約 66 億円減少しました。財政指標を他市と比較すると、まだまだ十分とはいえませんが、着実に向上していることは間違いありません。みなさん、共にがんばりましょう。

最後に、犬・猫を飼っているみなさん。市長のもとに苦情がたくさん届いています。同じ地域で暮らすみなさんへの配慮も、ぜひお願いしますね。